

「地球社会と私たち」

3年 社会科（公民的分野）

I 実践の目指しているもの

○教材化にあたって

第3学年の公民的分野の学習、「私たちと国際社会の諸課題」では、国際社会に対する理解を深め、国際社会における我が国の役割について考えるとともに、人類の一員としてよりよい社会を築いていくために解決しなければならない様々な課題について探究し、自分の考えをまとめることをねらいとしている。

本時では、戦争（紛争）、貧困、災害など世界が抱える問題について、「もし100人の村だったら」を題材とし、平和の実現のために自分に何ができるのかを考える。

○資料の活用方法

本時では、導入部分で札幌市平和バーチャル資料館を活用した。平和について考えるときに、札幌も平和ではなかった状況があったこと、これからの未来は誰も知ることができず、平和でない状況に日本になる可能性があることを理解するために、「札幌の戦跡」を使用して、生徒の関心を引き出すことを目的とした。

II 研究の内容

1 単元の目標

○関心・意欲・態度

国際社会の諸問題について関心をもち、日本の果たすべき役割や個人としての関わり方について、意欲的に考えることができる。

○思考・判断・表現

国際社会の活動に関わる様々な資料を比較し、関連付けながら、国際社会の現状や国際関係の変化について多面的・多角的に考察することができる。

○資料活用の技能

国際連合をはじめとする国際社会の活動に関する様々な資料を比較して読み取ったり、考察したことを分かりやすく発表したりすることができる。

○知識・理解

国際社会は、国家間の相互の主権の尊重と協力の上に成り立っており、経済的、技術的な協力などが必要であることを理解し、その知識を身に付けることができる。

2 単元の指導計画（5時間扱い）

- ① 地球社会と私たち・・・第5章の導入としての特設授業（本時）
- ② 国際社会における国家
- ③ 国際連合の仕組みと役割
- ④ 地域主義の動き
- ⑤ 新興国の台頭と経済格差

3 本時について

(1) 本時の目標

様々な国際問題を解決するために自分にできることを考え交流することで、人類の一員として平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。

(2) 本時の展開 (1 / 5)

日本は平和だと思うか？

- ・ 平和に対する一つの考え方 (平和=戦争のない状態) として、日本は「平和である」という共通理解をする。
 - ・ 世界と比較することで、自分の考えをもつ。
 - ・ 日本も平和ではなかった状況があったこと、これからの未来は誰も知ることができず、平和でない状況に日本になる可能性があることを理解する。
- ※バーチャル資料館の活用
- ・ 4人グループをつくる。
 - ・ 「世界がもしも100人の村だったら」のワークシートから世界の問題点を見付ける。
1 紛争 (戦争) 問題 2 食糧問題 3 貧困問題

学習課題：問題を解決するために、自分にできることは何だろうか？

- ・ グループ内で、どんな問題点があるか話し合う。
- ・ 問題点について自分に何ができるかを個人で考える。
- ・ 問題について自分たちができることをグループ毎に話し合う。
○募金活動 ○物資・技術支援 ○現地での活動 ○広報活動
- ・ 他のグループの発表を聞いて、自分にできることが他にないか考える。

【課題を解決した生徒の姿】

現在も様々な国際問題が起こっていることを理解し、自分に何ができるかを考え、行動することを意識することができる。

- ・ 話し合いを終えた後で、感想をワークシートに記入する。

- ・ 既習事項を確認する。
- ・ ICTを活用し、平和バーチャル資料を視聴する。
- ・ ワークシート (世界がもしも100人の村だったら) を配付する。

- ・ 机間指導を行い助言する。

- ・ 生徒2～3人を指名し、記述内容を交流する。

4 実践のポイント

【成 果】

- 第 5 章の導入部分として、生徒に国際社会で起きていることへの関心をもたせることができた。
- 「世界がもしも 100 人の村だったら」を活用することで、世界の課題を身近に感じることができた。国際問題は大きな課題であり、要因は複雑である。この複雑な内容を分かりやすく描かれている本を活用することにより、生徒の関心を高めることができた。

【生徒のまとめ～ノートより～】

「普段気付くことができなかった世界のことについて学ぶことができた。100 人の村ということだったので分かりやすく、紛争のことなどについて理解することができた。」

「世界で戦争が起こっていることは知っていたが、それについて考える機会が今まであまりなかった。今回の授業でさらに世界のことについて知りたくなった。」

【課 題】

- 国際問題を紛争問題、食糧問題、貧困問題と、三つにグループ分けを行ったが、まとめの部分で関連付けを行うことができずに終わってしまった。関連付けることができれば、単独の問題ではなく、複数の問題が絡み合っている世界の課題について、俯瞰することができると思う。
- 学習課題である「問題を解決するために、自分にできることは何か」ということを考えるとき、既習が十分に定着していなかったため、基本的な解決策しか出てこなかった。発展的な解決方法を導くためにも、既習を確認するなどの時間を多く取り入れる必要があった。

【課題探究的な学習に関わって】

- 国際問題という難しい内容であったが、グループ活動を通じて自分の意見と他者の意見を比較し、思考を深めることができた。
- 「自分に何ができるか」について考えるとき、生徒から既習の知識を引き出したかったが、上手くいかなかった。資料を調べる力をさらに伸ばすような授業の工夫が必要だと感じた。
- 生徒の関心を引き出すために、口頭での発問だけでなく、映像や動画などを使用して、難しい内容を分かりやすく提示することが有効であった。

【生徒のまとめ～ノートより～】

「動画が衝撃的だった。何気ない日常から戦争が始まるまでの過程は、自分たちにも起こる可能性があるのではないかと感じた。」

「グループ学習がおもしろかった。自分が考えていることが正解だと思っていたが、他の人の意見を聞く中で本当にそうなのかと疑問を感じ、考え方が変わった。」